

# 京田辺の農福連携センター

## 初「ノウフク」アワードで優秀賞

### 開所から10周年 「さんさん山城」またも勲章

京田辺市にある農福連携センター「さんさん山城」(新免施設長、藤永実センター長)と興戸小毛詰は、中央官庁などが横断的に構成する農福連携等応援コンソーシアム主催の「ノウフク・アワード」で優れた事例をたたえる優秀賞に選ばれた。時代を先取りする農業と福祉を結び付けた取り組みはますます注目を浴びる。地元の先駆者「さんさん」にとっては、環境省主催のグッドライフアワード(GLA)環境大臣賞(部門賞)に続く勲章。「開設10周年」メモリアルイヤーの幕開けにふさわしい吉報にスタッフらの熱がさらに増している。



さんさんと照る太陽が如く眩しい笑顔が輝く農業班メンバーたち

聴覚や身体、知的障害がある利用者らが活動する就労支援施設「さんさん山城」は2011年4月に開所。京田辺の市街地に位置し、同じ施設に見相や保護司会が同居。ワン

コインランチが好評なコミュニティカフェを併設し、分け隔てなく誰に対しても開かれたコンセプトが心とむもードを醸し出している。そして、少子高齢化が進む時代に、担い手が不足する農業と障害者雇用の充実を目指す福祉の両分野を結ぶ先駆け、架け橋となっている。

生産物や加工品の質と信頼度をさらに高める「ノウフクJAS」「デイスカパー農山漁村の宝」「JGAP」の認証・選定が続き、中央官庁や京都府、行政機関、国内外のマス

福連携等推進会議で、「一過性に終わらせず継続的なものに」との提言があり、農水省や他省庁、JA全中、経団連などで農福連携等応援コンソーシアムを20年3月に設立。初となる「ノウフク・アワード」には全国の数百

団体から応募があり、中から16団体を優秀賞に選出。コロナ禍、2月予定の表彰式が一旦延期となっているが、席上でグランプリ・特別賞3の発表が行われる。近畿地区からは「さんさん」など京都2と

奈良1の3団体が選ばれ、人を耕す(障害者等の社会参画、多様性ある社会)・地域を耕す(農林水産業の維持・発展、地域活性化)・未来を耕す(持続可能な地域社会の実現、新たな連携・つながり・好影響の創出)の基

準を「すべて満たした」。新免施設長は「昨年暮れはグッドライフアワードで良い締めくくり。今年最初にノウフク・アワードで幸先良

いスタートが切れた。これからも地域に根差した元気になる取り組みを進めたい」と前を向く。「さんさん」設立10周年で集大成として掘り下げた読み物の出版や、規格外の農産物を加工する施設を立ち上げ、地元特産のエビイモや万願寺、田辺ナスなどをアピールする願いを強くする。新免施設長は「人手

と手間が掛かる農作業をあえてやる。障害者が活躍できる場を提供することが、さんさんの存在意義。(経済が先ではなく)それがでる強みを生かす」と信念は揺らがない。